

怒りっぽくなった

— 行動・心理症状 (人により出方が異なる) への対応

認知症
しち-はち-きゅう
789
みんなで
支える
試して
学んで

怒りっぽくなった

認太郎...主人公 (認知症)



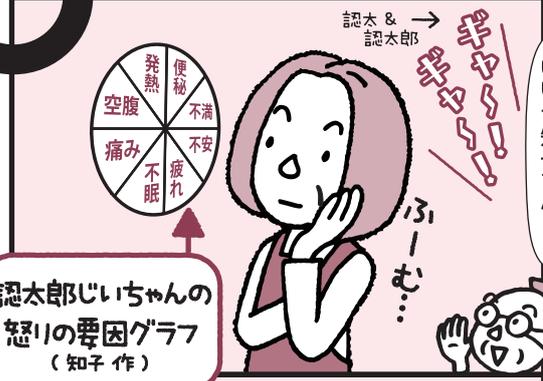
認太...息子



知子...嫁



認左衛門...認太郎一家のご先祖
守り神、お助けマン



*いつもうまくいくわけではありません。

怒りっぽくなった

— 行動・心理症状（人により出方が異なる）への対応



行動・心理症状（人により出方が異なる）：怒りっぽい

認知症の人が怒りっぽいのは、感情の抑制が効きにくくなったり、自分の気持ちを適切な表現で表すことが難しくなっているという理由が考えられます。

認知機能が障害されると、将来の予測や状況への適応や適切な判断ができず、どうしても失敗してしまうことがあります。ごく初期の認知症の人は、失敗が多くなった、昔なら難くできた事ができなくなった、他者の言っていることが理解できなくなった、といったことが重なり、常に大きな不安を感じています。一方で、自分の威厳や体面を必死に保とうとしています。

そうした結果、理屈より感情面が言動に反映されてしまい、周囲の人間にとってはそれが威圧感につながり、時に暴力的と感じたりします。

このケースのポイント

どうすればいい？

対応法 ①

ささいな事で怒り出した時は、一旦その場を離れて、様子を観察してみましょう。



対応法 ②

怒っている理由はあえて聞かずに、うまく言葉を合わせて対応しましょう。



対応法 ③

何か原因となっているような体調の変化はないか観察してみましょう。気になることがある時は受診をお勧めします。



認知症では、猜疑心が強くなり、人や物事が信じられなくなる傾向が見られます。例えば、ちょっとでも自分の思い通りにならないと「だまされた」と感じたり、家族が集まって話をしていると「仲間はずれにして自分の悪口を言っている」と思い込んで怒ったりもします。これまで社会的にもきちんと対応してきたという自負があるからこそ、昔に比べてふがいない自分に怒っている、ともいわれます。

これらは、脳の機能低下に伴い感情をコントロールする機能も低下してしまい、自分の感情が抑えられなくなっていることが原因といってよいでしょう。病気による症状なのです。本人の言っていること（怒っていること）をあまり真に受けずに、まずは受け止めてあげ本人に寄り添う介護を心がけましょう。体調不良（不眠、発熱、下痢、脱水、便秘、鉄欠乏性貧血等）が原因となっていることもあり身体の状態に気を配ることも大切です。気になることがある時は受診しましょう。

医師からのアドバイス

— かさの内科医院 笠野 哲夫（もの忘れ相談医）

